

平成25年度小中一貫教育スピーチコンテスト【最終審査会】 報告

H26.3.10

期 日	<p>【2月22日(土)】</p> <p>○ 今年度は昨年度より早めに実施した。中学校が期末考査の時期と重なり、生徒への負担を心配する声もあったが、学校・家庭においては昨年度以上の理解との協力が得られ、22校全校の代表児童生徒が参加した。(試行実施の昨年度は17校の参加)</p> <p>○ 昨年度中に校長会を通して確認しながら日程を設定したため、今年度については問い合わせや意見等はほとんどでなかった。</p> <p>※ 次年度は、一週間後の2月28日(土)に実施する予定。 (2月の土曜日授業を一週間下げて実施する学校があれば、重なることも考えられる。)</p>
会 場	<p>【メイトム宗像(市民活動交流館)：多目的ホール】※審査室は201と205</p> <p>○ 設備が整っており、準備もしやすかった。声がよく通り、スピーチが聞き取りやすい設備であった。ステージであったので、昨年と比べると見えやすかった。</p> <p>○ 駐車場は特に問題はなかった。会場の指示で、外部来賓の分だけ確保した。</p> <p>○ 当日の会場準備は時間が少なかったが、ステージの横断幕や机・椅子の配置等、事前に確認や音響・照明のリハーサルをしておいたのでスムーズに準備できた。</p> <p>○ 次年度の反省からマイク・音響の担当を設けた。(ハウリング等の微調整がすぐにできたので、マイクに関わるトラブルはなかった。)</p> <p>○ 開始前に出場する児童生徒への事前レクチャーを行ったので、スピーチの発表や表彰の時に戸惑う子どもはいなかった。</p> <p>● 小学生の発表時間が伸びた。初めの時間設定に無理があった。(中学生は課題文が簡単になったため、大幅に時間短縮された。)</p> <p>● 審査員の控え室は、ALTと一緒にしない方が良い。(今回はALTが別室に移動)</p> <p>● 受付の混雑はなかったが、座席が足りず新たに配置を追加したため、開始時刻が10分さがった。</p> <p>● 予想よりも参加が多く、立ち見やドアの外から見る人もあった。会場全体がひしめき合う状態になり、一次はスタッフの移動も困難な状態になった。</p> <p>● 審査員の一人からは、マイクの調整をしていたので、声の大きさについての判定ができなかったという意見が出ていた。)</p>
参加人数	<p>【出 場 者】 学校代表： 小学生15名、中学生7名 特別出演： 小学生5名、中学生2名 (計 29名)</p> <p>【審 査】 福岡教育大学英語教育講座 教員3名、福津市中学校教頭(中文連代表)1名 ALT 7名 (計 11名)</p> <p>【来 賓】 市長、3大学より3名、福岡県教育センター指導主事2名 (計 6名)</p> <p>【学校関係者】 (約30名) ※アンケート提出者の人数</p> <p>【保護者・参加者の関係者】 (約90名) ※アンケート提出者の記録より算出</p> <p>【主催者・事務局】 宗像市教育委員会20名、アウルズマネージャー1名 (計21名)</p> <p>算出計 約187名の参加(昨年度は約150名)</p> <p>※ プログラム250部のうち、残は30部。少なくとも200名は入場している。</p>

<p>目 的</p>	<p>【国語を大切にし、駆使することのできる宗像の子どもの育成】</p> <p>○ 一次審査を全校集会や学年集会で実施する、校長先生自ら指導や校内審査を行う等、積極的に教育活動へ組み込んで効果的に進めている学校が増えた。事前指導が手厚くなり、3分を超える学校が多かった。(●次年度は3分以内というルールを徹底する必要がある。)</p> <p>○ 中学生の特別出演(日本語スピーチ)は2中学校の協力を得られ、小学生のモデルとなった。</p> <p>【英語を使い、世界へ目を向けることのできる宗像の子どもの育成】</p> <p>○ 中学校では、各学校における英語科担当の協力が不可欠である。今回の代表生徒も、さらに細やかな指導を各学校で受けていた。今年度もスピーチやプレゼンテーション等の表現活動よりも課題文を暗唱して表現することを選んだ学校が多かったが、今年度は自作文が最優秀賞に選ばれていた。(●審査等にかかわる様々な考えを統一するために、次年度は、英語科担当教員の代表を交えて事前の準備を進めていく必要がある。)</p> <p>【意欲的に表現活動を行う子ども達への励ましと賞賛の機会とし、言語活動の充実を図る】</p> <p>○ スピーチコンテストという言語活動による表現を好み、自ら主体的に参加した児童生徒も多かった。家族総出で応援に駆けつけていただいた家庭、下級生を連れてきて次年度へのつなぎを行っている学校もあり、子どもたちへの励ましと賞賛の機会にすることができた。</p> <p>● 昨年度表彰された代表児童生徒については「特別出演枠」にする等、出場の条件等も整備していく必要がある。</p>
<p>テーマ</p>	<p>● 中学校課題文の選定は、7・8年生という実態に応じた適正なものを選ぶように、中学校文化連盟の状況をうけて選定した。英語科の年間指導計画に基づき、自作英語文によるスピーチ(プレゼンテーション)を奨励していきたいところだが、まだ自作英語文は少ない。暗唱大会ではなくスピーチコンテストであるという点からも、課題文を入れるか検討していく必要がある。</p> <p>○ 小学校課題文の選定では、「未来の宗像」を選ぶ児童が出てきた。テーマ設定や具体例も広がりを見せており、今後質も高まっていくことが期待される。</p> <p>● 国語・社会・総合的な学習等、年間指導計画と関連させる仕組みや、事例の提供を今後とも検討していく。</p> <p>※ 次年度に向けて、中学校の日本語文スピーチ、小学生の外国語活動発表を取り入れるかどうかを急いで検討しなければならない。</p>
<p>日程・進行</p>	<p>○ 携帯電話のマナーモードや座席等の諸注意について適宜アナウンスし、時間調整をしながら臨機応変に進めた。(●人数に対して会場が狭かったため、進行に支障をきたした。担当スタッフの意見をもとに、次年度の時間設定や進行・役割分担に生かしていく。)</p> <p>● 時間が前後することを事前に伝えていたが、休憩及び審査の時間があまりとれず不満に思っている参加者もいた。</p> <p>○ 昨年度の課題であった表彰時の「写真撮影」は実施することができた。(並ばせ方も考えておいた)</p> <p>○ 国際交流の視点からALTの出番を多めに設定した。(●調整に手間と時間を要した。)</p> <p>※次年度に向けて検討：ALT1名を司会として参加させ、ネイティブの発音を会場全体に聞かせた。</p> <p>ALT賞を設けて、小・中学校一人ずつ表彰した。</p> <p>出場者の名前・学校名・テーマ等を後ろに映した。(事前に本人に確認)</p>

<p>審査</p>	<p>○ 審査していただいた大学の先生方からは、このコンテストを市の事業としても価値あることと評価をいただいている。子どもが全力で頑張っている姿がとてすばらしかったとのコメントをいただいた。</p> <p>○ 出場者と保護者、学校には事前に審査の観点（コミュニケーション力）を知らせておいたので、事後の審査に関わる問い合わせに対応することができた。（●公平性を裏付ける方法を検討する。）</p> <p>● コミュニケーション力の観点から小学校の部、中学校の部どちらも審査していただいたが、昨年度のように部門を分けてお願いするか検討する必要がある。）</p> <p>● 審査表の改善を検討する。</p> <p>【中学校の部】委託業者（アウルズ）の協力は今後も不可欠。指導段階（原稿の見直し・発音のチェック等）からALTが関わるシステムも考えていくようにし、ジャッジシート（審査表）も改善していく。</p> <p>【小学校の部】外国語のような専門家チームの協力が必要。審査の観点と審査表（ジャッジシート）の見直しと改善をしていく。</p>
<p>表彰</p>	<p>○ 子どもたちは、保護者や学校関係者からたくさんの拍手をもらい達成感を味わった。</p> <p>○ 校内の一次審査に応募した児童生徒への参加賞を準備したので、学校から喜ばれた。</p> <p>● 賞状と名札を回収する担当者を決めていなかったため、そのまま持ち帰ってしまった子が多かった。</p>
<p>講評 総評</p>	<p>○ 審査員のALTの講評は難しい部分はあったが、外国語に慣れるという点において今後も必要であると考えている。（●日本語混じりで話す方法もある。今後検討する。）</p> <p>○ 福岡教育大学の先生に総評をいただいた。子どもたちに向けてわかりやすく話していただいた。（●次年度からは、審査結果や審査の状況について説明を入れていただくようにすると、出場者・参加者の同意を得られると考える。）</p> <p>● 福岡県教育センターや福岡教育事務所の指導主事より指導助言をいただきながら、次年度の準備を進めていく。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 今年度も学級担任・教科担任・管理職の熱心な指導、家庭での支えや励まし子どもたちの意欲と頑張りにつながった。</p> <p>○ 友達の応援に駆けつけた児童生徒の姿が目立った。</p> <p>● 土曜日の実施における、教職員のサービスや一般への広報等についても検討する。</p>

